

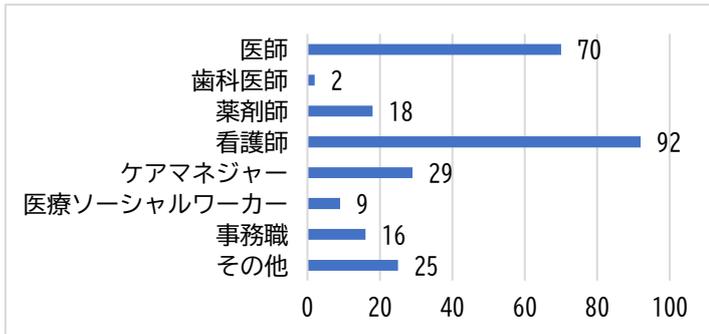
在宅医療研修会アンケート結果

オンデマンド配信開催 令和7年10月1日(水)～10月31日(金)

参加申込者 261名、視聴回数 401回

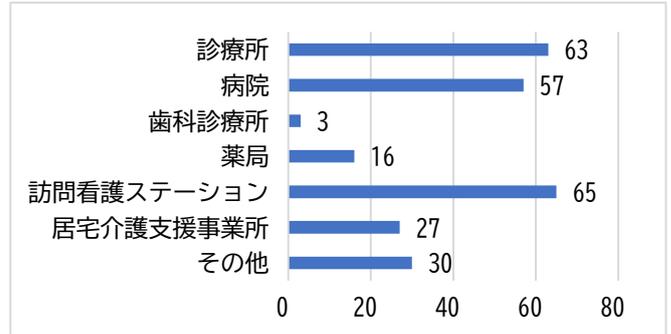
参加申込時アンケート結果【回答者261名】

①職種



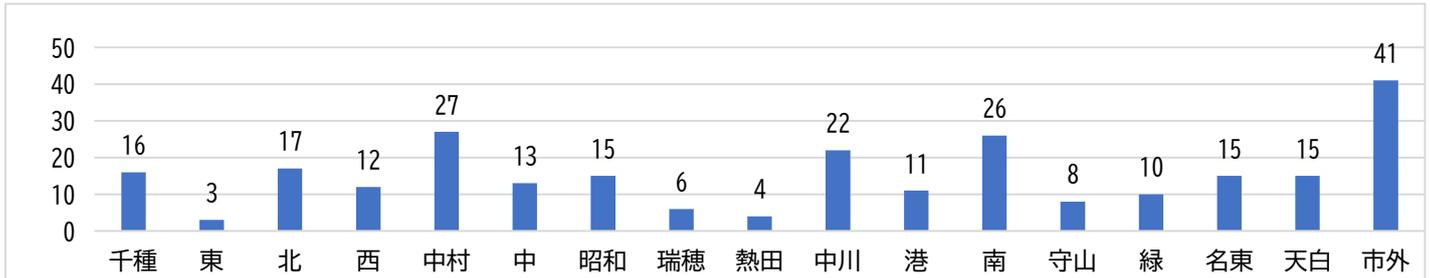
※その他の職種：作業療法士7、理学療法士4、保健師4
言語聴覚士3、放射線技師1、心理士1、介護福祉士1
介護職1、社協CSWI、不明2

②所属する医療機関（事業所）の種類



※その他の事業所の種類：行政12、施設等8
地域包括支援センター4、教育機関2、職能団体1
社協1、介護連携サポートセンター1、薬品卸1

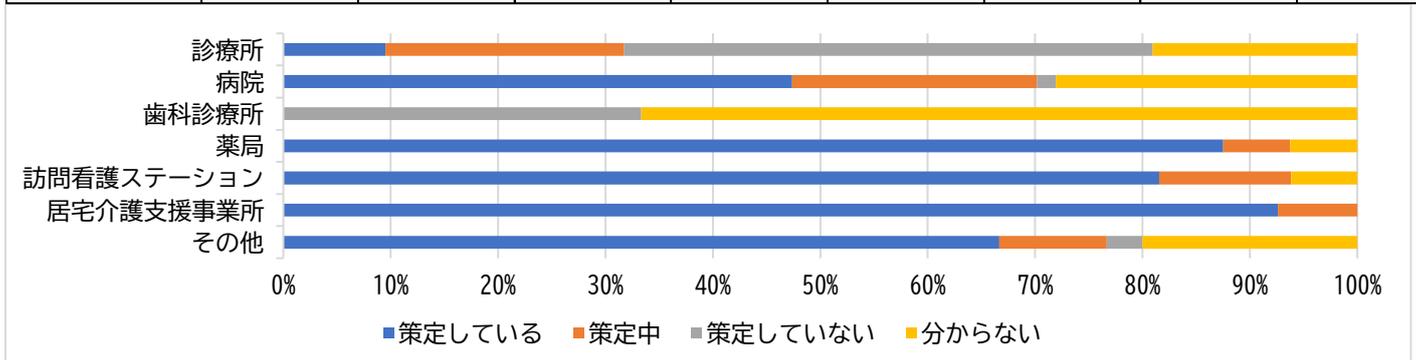
③所属する医療機関の（事業所）所在区



※市外：安城、一宮、稲沢、大府、岡崎、春日井、刈谷、江南、瀬戸、高浜、知多、東海、豊田、豊橋、半田、東浦、碧南、弥富

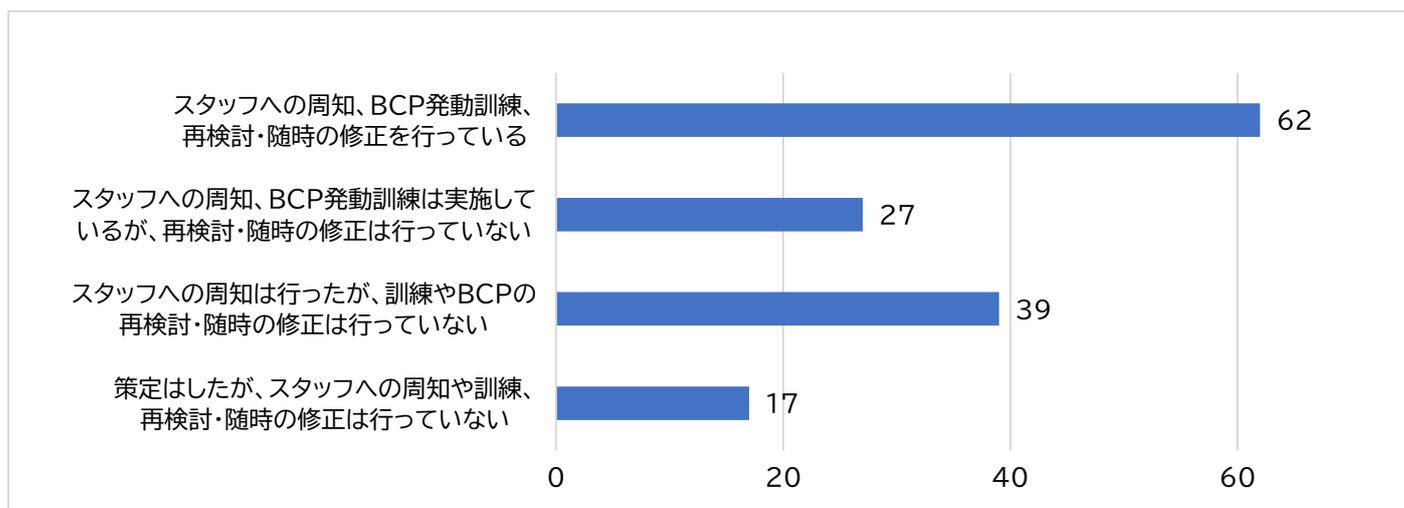
④ご所属先のBCP（事業継続計画）策定についてお答えください。

	診療所	病院	歯科診療所	薬局	訪問看護ステーション	居宅介護支援事業所	その他	計
策定している	6	27	0	14	53	25	20	145
策定中	14	13	0	1	8	2	3	41
策定していない	31	1	1	0	0	0	1	34
分からない	12	16	2	1	4	0	6	41
計	63	57	3	16	65	27	30	261



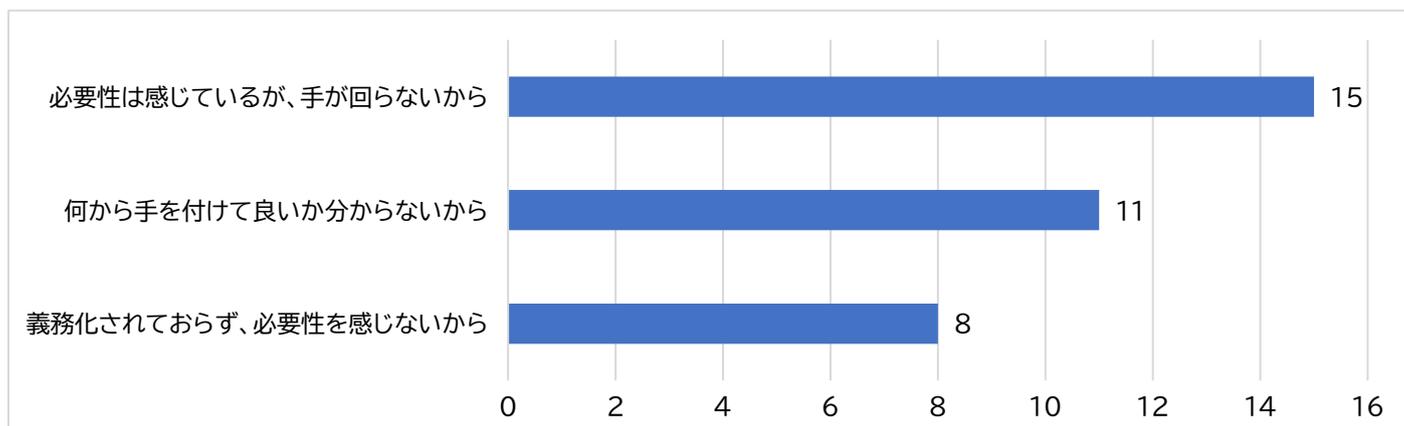
⑤BCPを策定していると回答いただいた方（145名）へお尋ねします。

BCPの運用状況についてお答えください。



⑥BCPを策定していないと回答いただいた方（34名）へお尋ねします。

策定していない理由を教えてください。

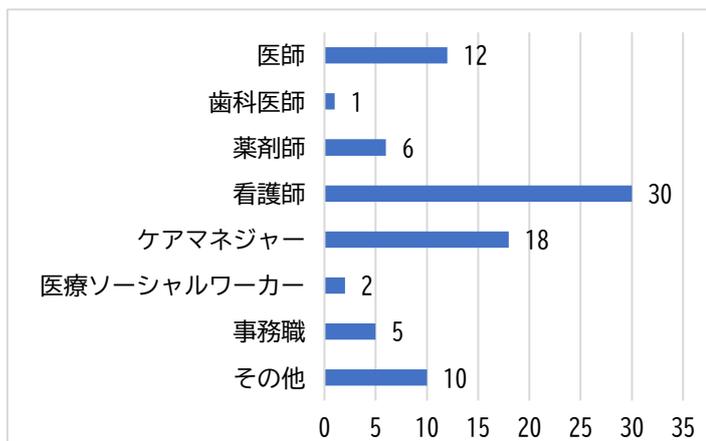


BCP策定において、今後どのような機会や情報があるとよいですか？ご意見があればご記載下さい。（抜粋）

- ・診療所用BCPの「ひながた」があると良いと思います。
- ・個人診療所に合ったマニュアル
- ・書き方やその体系的な運用方法について
- ・わかりやすい講習会等があれば参加したい。
- ・BCP策定研修、マニュアル策定のための研修会など
- ・クリニック用のBCP策定の講習があれば受けたいです。
- ・小規模クリニックの実例
- ・携帯型BCPを後押ししてくれるような、地域での取り組みなど。
- ・フォーマットがないと個人レベルでは困難です。逆に医師会で例文を作って頂けるとありがたいです。フォーマットを区の医師会単位でご紹介頂き、ノートPC持参の上で勉強会の時間内でほぼ策定できるように時間の強制力も必要と思います。

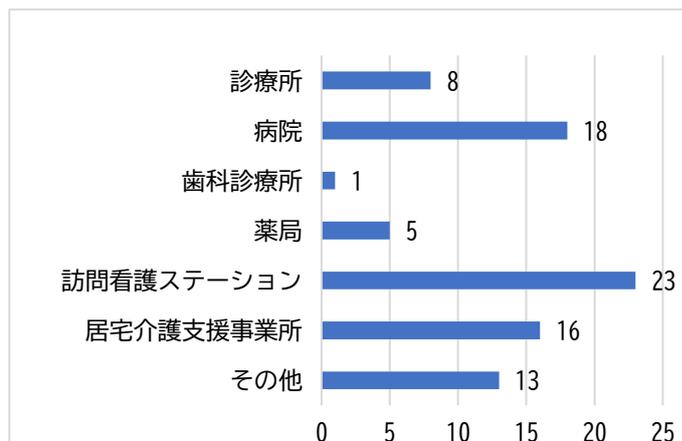
研修動画視聴後アンケート結果【回答者 84 名】

①職種



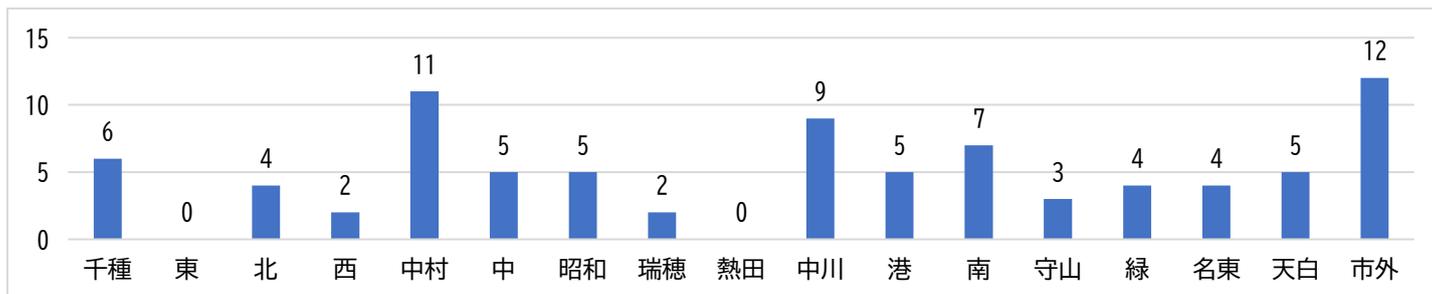
※その他の職種：理学療法士 2、作業療法士 2、保健師 2
言語聴覚士 1、公認心理士 1、介護職 1、不明 1

②所属する医療機関（事業所）の種類



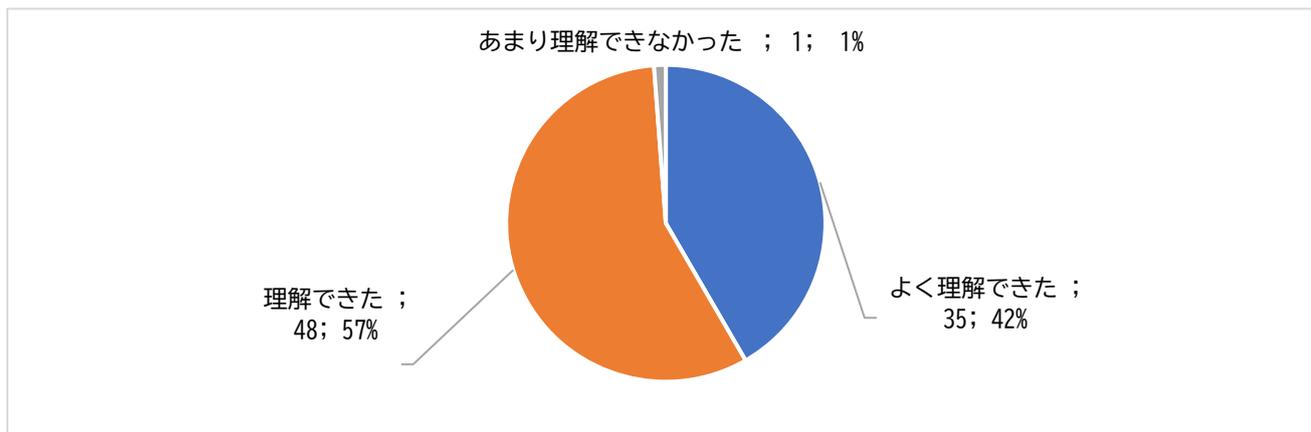
※その他の事業所の種類：施設等 5、行政 4、職能団体 1
薬品卸 2、地域包括支援センター 1

③所属する医療機関（事業所）の所在区



※市外：稲沢、江南、東海、豊田、半田、東浦

④講義内容はいかがでしたか。

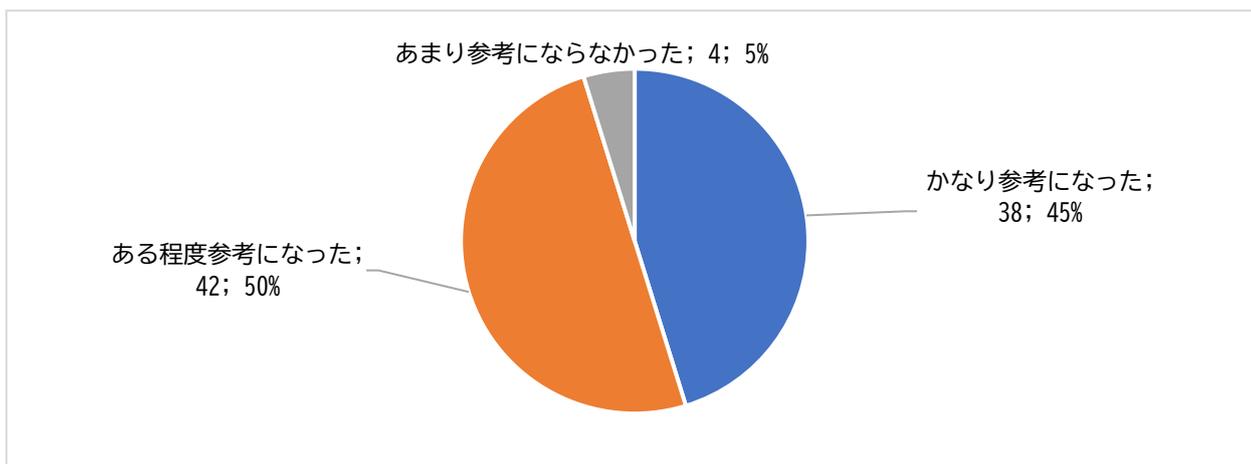


⑤講義への感想やご意見をご記載下さい。【所属別、職種別 抜粋】

診療所	医師	<ul style="list-style-type: none"> ・生々しい話で、勉強になった。 ・災害時の対応の難しさが良く分かり、参考になった。 ・スタッフへのガソリン代 200/月の支給について、税務上どのような扱いで対処しているか知りたかった。
	作業療法士	<ul style="list-style-type: none"> ・電源、人など具体的な話が聞け、勉強になった。

病院	医師	・大変迫力のある内容だった。日本医大の AMAT が入った時には、まだ DMAT 活動拠点本部は能登町に設置されておらず、瀬島先生が拠点本部長をお務めになっている状況だったと、よく理解できた。BCP で 3000W の用途を事前に明確にさせていたあたりも素晴らしいと感じた。
	看護師	・医療従事者として、発災時の対応について改めて考える機会となった。 ・災害時には BCP を策定しておくことが大切だと学んだ。
	公認心理士	・自施設の機能に合わせて BCP を作成し、どの視点を重要視したのかが、よくわかった。
	医療ソーシャルワーカー	・BCP を策定しても、発災直後の混乱の中でうまく稼働できるか定期的に検証、修正が必要だと感じた。
歯科診療所	歯科医師	・大変ためになった。
薬局	薬剤師	・BCP がどのように役立ったか、実例を交えた講義でわかり易かった。 ・何に困り、何をしておくべきか具体的に知る事ができとても参考になった。
訪問看護 ステーション	看護師	・実際の経験を詳細に講義していただき、イメージが出来た。 ・貴重な体験や取り組み結果等、実際の話で分かりやすく大変参考になった。 ・職員との災害協定で毎月 20L ガソリンを提供していることに驚き、素晴らしいと思った。 ・想定できなかったことも考えることができ、貴重な時間でした。 ・平時から地域連携 BCP を考えておく必要があるとよくわかった。 ・日頃から BCP について職場で話し合うことが大切だと思った。 ・日頃から多職種連携を密に行い、有事の際お互いがどのように連携し、行動していくか等、情報共有や話し合いが必要と感じた。 ・災害協定、官民のことなどは考えたことがなかったが必要性を認識した。 ・介護保険で BCP 作成がルールとなり、作成はしているが、有事に機能するか考えるきっかけとなった。区内近隣医師会の先生方と連携できればと感じた。
居宅介護 支援事業所	ケアマネジャー	・被災地での経験をもとに、リアルな話が聞けた。 ・日頃の備え方や実際の活動状況が具体的でわかりやすかった。 ・色々な動きや今後の想定を考えた初動がわかりやすかった。 ・支援が到着するまで自助共助で対応することや「BCP」詳細があると知った。 ・他事業所や地域と連携が必要で、準備が必要であると感じた。 ・医療現場、多職種との連携についてもっと詳しく学びたいと思った。 ・日頃から顔がみえる関係性を作っておくことがいかに大事か考えさせられた。携帯電話が使えない、電子機器が使えないのは相当な痛手。どうしていくか議論が必要と感じた。
施設等	医師	・災害時医療チームにどの様に協力、行動してもらうかの事前準備など、とても参考になった。被災状況により対応を前もって決めていたことで、協力体制が取れたのだと思った。
	看護師	・小規模医療機関には策定義務がないことを初めて知り、驚いた。DMAT、JMAT、日赤といった支援チーム間の連携が難しい状況も知らなかった。連携するためにはどうしたら良いのか考えなければならない。お世話になっている開業医の先生方も多く、有事に備え色々と考えておかなければならないと改めて感じた。
	事務職	・BCP に関する内容がとても参考になった。
地域包括支援 センター	ケアマネジャー	・BCP を策定しても、実際にそのように動けるか想像がつかなかったが、BCP があることで発災時に動けることが多いと感じた。
保健センター	医師	・被災地診療所の具体的な動き、考え方を知る事ができ非常に有意義だった。 ・行政と医療機関の連携が重要だが、思ったより多くの課題があると感じた。

⑥座談会は参考になりましたか。

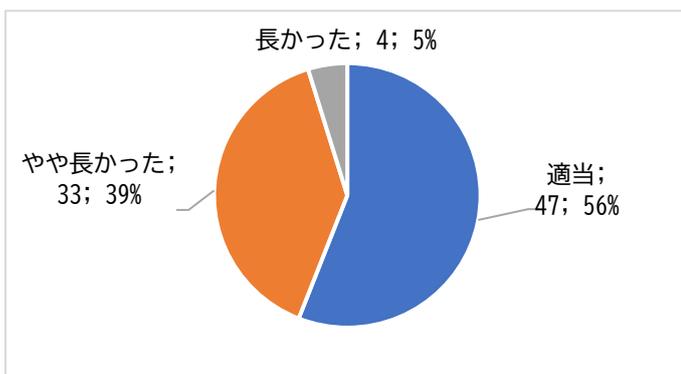


⑦座談会への感想やご意見をご記載下さい。【所属別、職種別 抜粋】

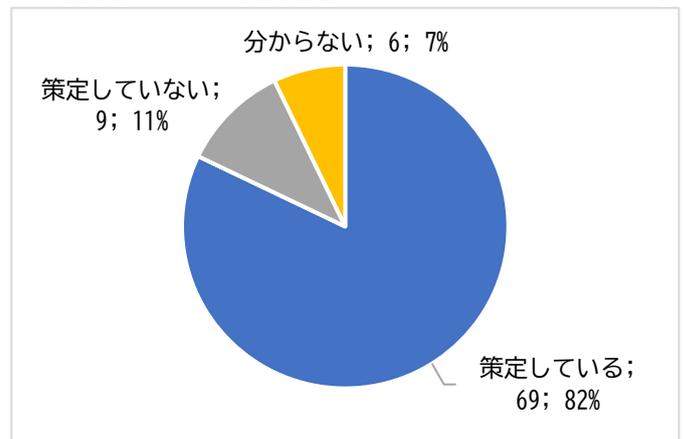
診療所	医師	・具体的ではあったが聞いたことのない言葉やピンとこない部分もあった。
病院	医師	・亀井先生と任先生からの質問は大変よく練られていて簡潔かつ鋭い内容で、それに対し、間髪入れずに次々に回答する瀬島先生も素晴らしいと感じた。
	看護師	・発災当初から、現場でどんな準備や心構えが必要か知る事が出来た。 ・大変な御苦労が発生直後から続いている現場があり、自分事として捉え、地域の中での連携について考えていきたい。 ・生きるために必要な備蓄を常時から準備しておくことが大切だと学んだ。
	言語聴覚士	・平時から、薬をどうしたら処方できるか、診療はどういった扱いになるのかとの話や、行政と協定を結んでおかないといけないとの話が頭に残った。
	医療ソーシャルワーカー	・シンポジストの先生方が現場で想定される疑問を聞くことができよかった。 ・医療機関だけでなく行政や企業とともに取り組む必要のある連携型 BCP の策定を市や県が主導して取り組んでほしい。
	公認心理士	・災害時の状況がわかった。
歯科診療所	歯科医師	・分かりやすくて良かった。
薬局	薬剤師	・名古屋の現状も知ることができてよかった。 ・認知症のある方などの避難所への受け入れが難しい事、簡易トイレを十分に準備する必要があるとの話が座談会で印象的だった。 ・東海地方では南海トラフ地震がくるといわれているので、改めて BCP の策定(地域・行政などの連携)が必要であると感じた。
訪問看護 ステーション	看護師	・聞きたいと思った質問をしていただけ、とても参考になった。 ・地域でのコミュニケーションが大切であると思った。 ・講義でも感じたが、多職種連携が重要であると思った。 ・顔の見える関係、自助、受援体制を作ることの重要性など勉強になった。 ・地域での課題や、行政との課題が分かりやすかった。 ・驚いたのは、避難所で診察、処方しても保険請求できず、話し合いでやっと災害救助法が適用されたということ。訪問看護師ならどうなるのか？ボランティアになるのか？と心配になった。 ・避難所での活動などについて、行政と話し合いが必要と理解できた。
	理学療法士	・災害とはいえ、制度でできている以上診療報酬を請求できないものはあるが、柔軟に対応できるような制度の整備を行政には行ってほしいと感じた。 ・地域 BCP が必要であると思われる。 ・スタッフの車の燃料については、これまでなかった考え方で勉強になった。

居宅介護 支援事業所	ケアマネジャー	<ul style="list-style-type: none"> ・課題について具体的な話し合いがされており、参考になった。 ・被災時に自分の立場で何ができるかを考える機会になった。 ・各事業所や職員が役割をもって支援できるのか？職員の意識付けと日頃の訓練が重要と改めて感じた。 ・あらかじめ行政との取り決めが大事である。ここでも医療、介護連携が必要だと感じた。人・物・金が印象に残った。
施設等	医師	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように対応したのか、具体的な話題となり、参考になりました。
地域包括支援 センター	ケアマネジャー	<ul style="list-style-type: none"> ・被災地の医師が避難所で自発的に診療を行った場合、保険診療として扱うことができないという厚労省の通達、事前に行政との協定の必要性があることを聞き、驚いた。最終的に保険適応ができ良かったが、想定される状況を事前に調べておかないといけないと感じた。
保健センター	医師	<ul style="list-style-type: none"> ・立場上、特に地域 BCP について関心を持って拝聴した。行政と地域の保健医療福祉関係者の顔の見える関係をもとに BCP 策定に取り組めることが理想。
薬品卸	ケアマネジャー	<ul style="list-style-type: none"> ・能登と比較して規模の大きい名古屋市での課題も見えてくる内容だった。

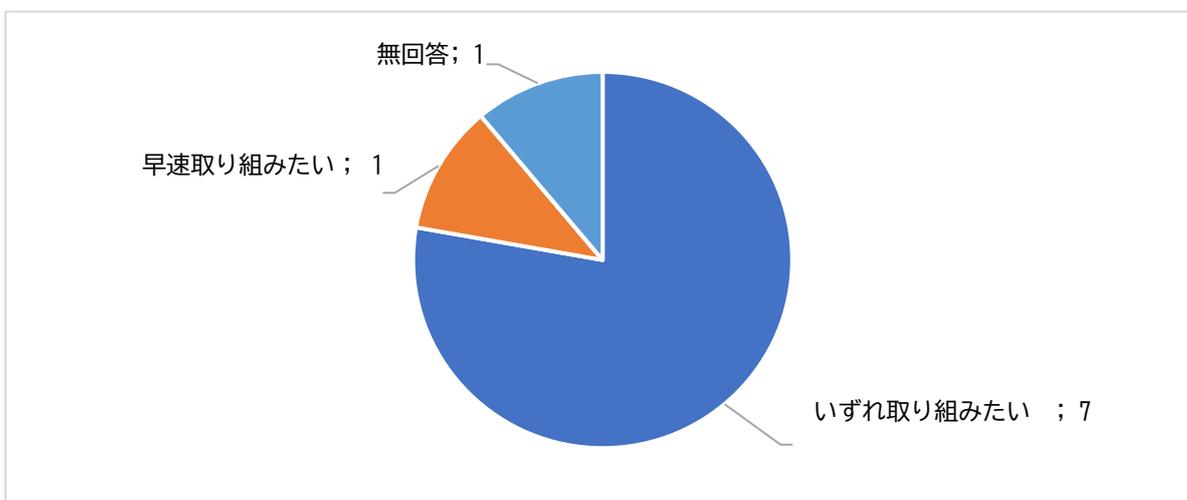
⑧講義・座談会を合わせ 90 分程度の動画でしたが、
時間設定はいかがでしたか。



⑨所属先の BCP 策定状況についてお答えください。



⑩BCP を策定していないと答えた方(9名)にお尋ねします。
今後の BCP 策定のご予定についてお答えください。



⑪本研修を受講され、具体的に実施したい取り組みがあればご記載下さい。【所属別、職種別 抜粋】

診療所	医師	<ul style="list-style-type: none"> ・簡易トイレの準備 ・ポータブル電源の購入 ・スタッフとの話し合い ・発災から災害対策本部立ち上げまでの実地訓練
病院	看護師	<ul style="list-style-type: none"> ・ポータブル電源の購入 ・スタッフと発災時について話し合い ・アクションカードの見直し
	作業療法士	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフとの話し合い
	公認心理士	<ul style="list-style-type: none"> ・BCPの見直し
	事務職	<ul style="list-style-type: none"> ・ポータブル電源の購入、自家発電装置の見直し、通信機器の検討 ・より具体的なBCPへの改定
歯科診療所	歯科医師	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフとの話し合い
薬局	薬剤師	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ間の話し合い
訪問看護 ステーション	看護師	<ul style="list-style-type: none"> ・ポータブル電源の購入を本社に要望する ・職員用の備蓄 ・発災時に本当に必要な電源、トイレ、通信（スターリンク）の手配 ・法人との話し合い ・スタッフとの話し合い ・常日頃からスタッフと想定について話し合いを行う。 ・スタッフと一緒にBCP修正 ・災害訓練 ・地域資源について知る ・連携型BCPについて地域全体で検討する場を作りたい。 ・行政と避難所での活動についての話し合いを進める。
	理学療法士	<ul style="list-style-type: none"> ・自社以外との連携体制の構築 ・要援護者の自助への支援の徹底
居宅介護 支援事業所	ケアマネジャー	<ul style="list-style-type: none"> ・災害用トイレの準備 ・事業所での話し合い ・想定した初動の話し合い ・現在策定されているBCPの実効性の確認 ・職員全員での訓練等 ・自治会との話し合い ・地域住民との合同研修 ・住んでいる地域の避難所でできる行動、しても良い行動を話し合う。 ・事業所のスタッフや近隣地域を含め、日頃より連携が取れる関係を作る。 ・当事業所周辺の病院やクリニックのBCPの取り組みについて確認
施設等	看護師	<ul style="list-style-type: none"> ・BCPの従業員全体への啓蒙 ・自分の施設のBCPの確認
保健センター	医師	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の保健医療福祉関係者との連携強化 ・災害時の対応について、職員全体の意識の向上と対応力強化

⑫医師へのご質問です。この「在宅医療研修会」は、在宅医療に関わる医師を支援するとともに、かかりつけ医による在宅医療への参入を促進することを目的としています。今後の「在宅医療研修会」について、開催方法や取り上げて欲しいテーマなど、ご意見があればご記載下さい。

<ul style="list-style-type: none"> ・基幹病院の在宅医療への取り組み ・非ガン患者(予後がわからない)への対応方法 ・訪問診療でのがん患者の看取りの実際 ・整形外科、眼科、耳鼻科、泌尿器科などの専門科による在宅診療など ・小児科から内科への移行について、内科の先生方のお話をお聞きしたい。
--